

## 第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 査

### 【PLAN】

#### 事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	協働の環境づくり推進事業				事業期間	平成23年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	6-1-1	他に関連する基本事業	6-1-2	-	-	-	-	所管課係	市長公室協働推進係
目的 (何のために実施するのか)	行政主導のまちづくりから、市民と行政が目的や課題などを共有し、ともに取り組む協働のまちづくりについての相互理解、協働意識の醸成を図る。							手段 (どのような方法で実現するのか)	これまで実施してきた協働に関する事務事業数を維持することを目指し、職員・市民の協力を得られるように内容や手法を改善しながら継続する。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民、町内会や市民活動団体							成果 (どのような効果が得られるのか)	市民、町内会組織や市民活動団体、企業等と懇談し意見交換することにより、把握した課題の解決策を検討することができるのと同時に、出された意見等をこれからの市民と行政との協働のまちづくりの方策等に反映することができる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯	人口減少・少子高齢化が進む一方、住民ニーズは多様化・複雑化し行政に期待される役割は増え続けている。このようななかで、魅力あるまちづくりを進めていくには、行政と住民の「協働によるまちづくり」を進めていく必要があることからH23.5月にまちづくり協働課まちづくり協働係を新設した。その後、H25.4月に市長公室課協働推進係に課係名を変更するとともに、協働のまちづくりの理念や推進の基本的な方向性を示す「砂川市協働のまちづくり指針」を策定し、さまざまな事業を進めてきた。各団体や企業等との相互理解を進めるため「協働のまちづくり懇談会」や「協働のまちづくり企業訪問」を実施。H25年度から「市民活動等入門講座」、H26年度から人材の裾野を広げるため「市民活動等ステップアップ講座」、H29年度から市民活動のノウハウを学んでいただくために「地域力UP講座」を開催。													

### 【DO】

#### 実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計 計		
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)		実施4カ年 合 計	
投 入 さ れ た 事 業 費 の 推 移	国 費	計 画 額			0				0					0	0	
		予 算 計 上 額			0				0						0	0
		実 績 額			0				0						0	0
	道 費	計 画 額														0
		予 算 計 上 額														0
		実 績 額														0
	地 方 債	計 画 額														0
		予 算 計 上 額														0
		実 績 額														0
	そ の 他	計 画 額	300,000	300,000	300,000	900,000	300,000	300,000	300,000	900,000	300,000	300,000	300,000	300,000	1,200,000	3,000,000
		予 算 計 上 額	300,000	300,000	300,000	900,000				0					0	900,000
		実 績 額	0	261,000		261,000				0					0	261,000
一 般 財 源	計 画 額	7,000	7,000	7,000	21,000	7,000	7,000	7,000	21,000	7,000	7,000	7,000	7,000	28,000	70,000	
	予 算 計 上 額	7,000	3,000	3,000	13,000				0					0	13,000	
	実 績 額	0	39,493		39,493				0					0	39,493	
事 業 費 合 計	計 画 額	307,000	307,000	307,000	921,000	307,000	307,000	307,000	921,000	307,000	307,000	307,000	307,000	1,228,000	3,070,000	
	予 算 計 上 額	307,000	303,000	303,000	913,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	913,000	
	実 績 額	0	300,493	0	300,493	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300,493	
事 業 費 予 算 の 内 容	計 画 額	懇談会会場借上42千円 地域力UP講座講師謝礼 210千円 地域力UP講座講師謝礼 210千円 普通旅費 28千円 その他 55千円														
	予 算 計 上 額	前年度同額														
	実 績 額	前年度同額														
前 年 度 予 算 と の 比 較 (増減理由)	計 画 額	予算額は減少。消耗品費の減額のため。														
	実 績 額	福祉センターの閉館により会場借上費が不要となったため。														
実 績 と の 比 較 (増減理由)	計 画 額	新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。														
	実 績 額	普通旅費の減。														

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：懇談会等の開催回数	指標の求め方：懇談会等の開催回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：協働事業数	指標の求め方：協働事業調査による協働事業数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	1 0	1 1	1		1	1	1		1	1	1	1	
	成果指標 1 (単位/個)	計画値 実績値	130 131	130 132	130		130	130	130		130	130	130	130	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					普通である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域力UP講座の開催を見送ったほか、まちづくり懇談会も実施することができなかった。協働事業についても非常に大きな影響を受けており、さまざまな事業が中止となった。そのような中でも人数制限やオンラインでの開催など、各課で工夫を凝らすことで計画値は維持することができた。	自己分析： まちづくり懇談会については実施することができなかったが、11月に地域力UP講座を開催することができた。協働事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも計画値は維持することができた。	自己分析：	判断理由： 協働事業数については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも計画値は維持することができた。懇談会等の開催回数についても計画値は維持することができたが、今後は新市長が就任したことを受け、各団体や企業等と意見交換を行い、課題などを共有し相互理解を進めるために協働のまちづくり懇談会を開催することが必要と考えているため「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 協働のまちづくりを進めるうえで、協働の担い手となる市民をはじめ、市民活動団体等と意見交換を行うことは、市民と市が目的や課題などを共有し、相互理解を図るためにも必要である。また、講座を継続して開催することにより、多くの市民に協働意識の醸成と協働に対する理解を浸透させていくことも必要であると考え。協働事業についても、市民と市がそれぞれの役割と責任を認め合いながら、地域を良くしたり、地域の課題を解決したりする目的のためにも事業数を維持することが必要と考えるため「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

## 第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 査

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	広報すながわ発行事業				事業期間	昭和26年度 ～ 年度									
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	6-1-2	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	—	所管課係	市長公室課広報広聴係
目的 (何のために実施するのか)	市民の暮らしに必要で身近な情報や市政運営状況などの行政情報をわかりやすくお知らせし、市民との情報の共有化を図り、市政に対する関心を深めてもらう。						手段 (どのような方法で実現するのか)		「広報すながわ」はA4判で作成し、発行日は毎月1日と15日、年24回発行とする。原稿は自主製作し、印刷製本を外部委託している。広報紙は広報委員63名により市内の全世帯に配布される。また、地デジ広報によりイベントや緊急時の避難情報などを配信している。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民						成果 (どのような効果が得られるのか)		広報委員が地域を回り実地に確認することにより、全ての世帯へ確実に市政情報が提供される。特に重要な情報については、特集記事などを通じてより具体的に市民に周知を図ることで行政に対する関心や理解が深められる。アプリケーションを使う電子版(カタログポケット)ではいつでも手軽に閲覧できる。また、迅速性が必要な情報発信については地デジ広報を使用する。						
事業開始時の状況・これまでの経緯	昭和26年に町政だよりとして発行を始め、昭和36年より駐在員に代わって広報委員を任命し配布を行っている。平成12年度から月3回の発行を2回へと変更し、それまで以上に紙面の内容充実に取り組んだ。令和元年度には広報作成ソフトを一新し、UDフォント(ユニバーサルデザインフォント)を使用するなど高齢者にも読みやすい紙面とした。令和2年8月より、スマホやタブレットなどでも無料で閲覧できるアプリケーション(カタログポケット)を導入し、カラーや多言語、音声読み上げに対応したほか文字を拡大できるポップアップ表示やスライドショーで複数の写真を閲覧できるようになった。														

【DO】

実績

(単位: 円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期総合計画計	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計		
投入された事業費の推移	国 費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道 費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地 方 債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	そ の 他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
一 般 財 源	計画額	11,846,000	11,846,000	11,846,000	35,538,000	11,846,000	11,846,000	11,846,000	35,538,000	11,846,000	11,846,000	11,846,000	11,846,000	47,384,000	118,460,000	
	予算計上額	11,846,000	12,735,000	13,480,000	38,061,000				0					0	38,061,000	
	実績額	10,986,370	11,927,452		22,913,822				0					0	22,913,822	
事業費合計	計画額	11,846,000	11,846,000	11,846,000	35,538,000	11,846,000	11,846,000	11,846,000	35,538,000	11,846,000	11,846,000	11,846,000	11,846,000	47,384,000	118,460,000	
	予算計上額	11,846,000	12,735,000	13,480,000	38,061,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38,061,000	
	実績額	10,986,370	11,927,452	0	22,913,822	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,913,822	
事業費予算の内容	計画額	・ 広報委員業務謝礼4,198千円 ・ 印刷製本費6,105千円 ・ 使用料1,543千円		・ 広報委員業務謝礼4,198千円 ・ 印刷製本費7,002千円 ・ 使用料1,535千円		・ 広報委員業務謝礼4,191千円 ・ 印刷製本費7,744千円 ・ 使用料1,545千円										
	予算計上額	・ 物価高騰による印刷製本費紙代の増		・ 印刷製本費紙代の物価高騰、カラー化による増		・ 印刷製本費紙代の物価高騰、カラー化による増		・ 広報システム使用料の増								
	実績額	・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減		・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減												
前年度予算との比較 (増減理由)	計画額	・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減		・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減												
	実績額	・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減		・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減												
実績との比較 (増減理由)	計画額	・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減		・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減												
	実績額	・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減		・ 印刷製本費の入札による減、広報すながわ発行ページ数の減												

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：広報発行回数	指標の求め方：年間発行回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：取材記事掲載数	指標の求め方：取材した掲載数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	24 24	24 24	24 24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	70 99	70 115	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： コロナウイルス感染症により取材機会が減少したものの計画値を上回ることができた。また、他課のイベントや行政情報などを工夫して掲載したことにより、スイートスタンプラリーによる市の経済効果やマイナンバーカードの取得数の増加など様々な効果が出ており、広報の役割を果たしたと考えている。今後も発信に必要な情報を見つけ、取材で得られる情報を伝わりやすい紙面にして届けられるよう工夫していくこととしたい。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症により減少していたイベント等が減少し、かつ回復傾向にあり、前年よりも取材機会が増加した。また、他課のイベントや行政情報などを工夫して掲載したことにより、スイートスタンプラリーによる市の経済効果やマイナンバーカードの取得数の増加など様々な効果が出ており、広報の役割を果たしたと考えている。今後も発信に必要な情報を見つけ、取材で得られる情報を伝わりやすい紙面にして届けられるよう工夫していくこととしたい。	自己分析： 自己分析：	判断理由： 近年は、新型コロナウイルス感染症によりイベント等が減少していたため、全体的に取材回数は少ないが、計画値は上回っている。また、令和5年度9月より、通年でカラー化をするため補正したところであるが、同時にリニューアルし今までよりも紙面全体の内容をまとめたり、構成等を組み直すことにより、ページ数を減少させ大幅に予算額を増加させないようとしたところである。現状のまま継続させるが、細かい部分では読みやすさ・見やすさなど伝わりやすい広報紙を目指し改善していきたいと考えている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5： 近年は、新型コロナウイルス感染症によりイベント等が減少していたため、全体的に取材回数は少ないが、今後上昇していくものと考えられる。令和5年度9月より、通年でカラー化と同時にリニューアルし、今までよりも紙面全体の内容をまとめたり、構成等を組み直すことにより、ページ数を減少させ大幅に予算額を増加させないようとしたところである。現状のまま継続させるが、細かい部分では読みやすさ・見やすさなど伝わりやすい広報紙を目指し改善していきたいと考えている。				R8：				R10：						



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：開催回数	指標の求め方：開催回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：参加者数	指標の求め方：参加者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	2 1	2 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	40 54	40 97	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルスの影響により施設見学会が中止となり、計画値を下回ったが、砂川を紹介する写真のみで54名からの応募があったところであり評価できる内容と考える。引き続き活発な写真展となるよう取り組みを積極的にしていきたい。	自己分析： 施設見学会は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、時間を短縮し開催したが43名の参加があった。砂川を紹介する写真は54名からの応募があり、どちらも評価できる内容と考える。引き続き活発な写真展となるよう取り組みを積極的にしていきたい。	自己分析：	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったことを除くと、活動指標、成果指標ともに評価できる数値である。さらに活発な事業となるよう、改善、工夫等しながら取り組んでいるところである。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 施設見学会の見学先については、新型コロナウイルス感染症の影響により、5類感染症に移行されたあとも、事業所によっては断られるところもある状況であるが、できる限りまちの動きや状況を把握でき、市民が興味を持つような事業所や施設を見学できるようにしていくこととする。 砂川を紹介する写真については、応募者数を維持し、さらに上げていくためには、宣伝を増やし参加しやすい状況をもっとアピールしていく必要があることから、現在のインスタグラムアカウントを利用して工夫した宣伝となるよう作成し、不特定多数が目にする機会を増やすことが最大の効果であると考えている。 両事業ともに細かい部分での修正、工夫などをしながらより良いものとなるよう継続していきたい。				R8：				R10：						



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：開催回数	指標の求め方：開催回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：参加者数	指標の求め方：参加者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値 実績値	2 0	2 0	2		2	2	2		2	2	2	2		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	30 0	30 0	30		30	30	30		30	30	30	30		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない										
	総合評価					普通である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、企業訪問、「市長と語ろう」については中止となった。情勢を見ながらオンライン配信などの方法も視野に入れ開催することとしたい。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、企業訪問、「市長と語ろう」については中止となった。情勢を見ながらオンライン配信などの方法も視野に入れ開催することとしたい。	自己分析：	判断理由： 近年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業訪問、「市長と語ろう」については中止としているところであるが、砂川市立病院附属看護専門学校からの要望もあり市長と生徒との懇談を行ったりしていることから「普通である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 近年は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止していたが、5類に移行されたことにより、市長と語ろう、企業訪問ともに開催しやすい状況になってきている。企業訪問については、この間市長が変わったことから、また1から訪問する態勢となったが、市長の意向を踏まえながら選定し行っていくこととする。				R8：				R10：					





【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：新メニューの数	指標の求め方：出前講座における新たなメニューの数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：開催回数	指標の求め方：開催回数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画 合計	
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5			
		実績値	5	12													
指標	成果指標 1 (単位/件)	計画値	24	24	24		24	24	24		24	24	24	24			
		実績値	8	10													
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)															
		総合評価				普通である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新メニューの開設数は計画値どおりであるものの、開催数は計画値を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言下などで開催ができる状況になかったこと、市立病院の講座が開催できなかったことなどが要因である。	自己分析： 新メニューの開設数は計画値を達成しているものの、開催数は計画値を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったことや申し込み後に中止としたことなどが要因である。	自己分析：	判断理由： 活動指標は計画値を達成しているも、近年の新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、成果指標を達成することができていない。良いとも悪いとも判断ができないことから普通と評価した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性				現状のまま継続													
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 近年は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催することができない状況が続いていたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことから、今後はこれまでよりも開催するにあたって容易になると考える。そのため、開催数も徐々に上がっていくと見込み「現状のまま継続」と判断した。				R8：				R10：						



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：新規ページの開設数	指標の求め方：新規ページの開設数 (各課の事業周知ページを除く)
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：アクセス数	指標の求め方：年間総セッション数 (全ページ合計)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値 実績値	2 6	2 5	2		2	2	2		2	2	2	2		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	400,000 618,132	415,000 711,643	430,000		445,000	460,000	475,000		490,000	505,000	520,000	535,000		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					極めて良好である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症関連の情報の更新が多く、緊急事態宣言中は特にアクセス数の増加がみられた。また、各課のイベントや新たな取り組みや事業の情報に繋がりがやすいようトップページにあるバナーを定期的に更新することにより、アクセス数が増えたと考えている。	自己分析： クマ出没状況や新型コロナウイルスの影響による学校閉鎖の状況などでアクセス数の増加が見られた。また、各課のイベントや新たな取り組みや事業の情報に繋がりがやすいようトップページにあるバナーを定期的に更新することにより、アクセス数が増えたと考えている。(スイートスタンプラリー、みまもりんご体操、コンビニ交付、紹介する写真、職員募集の新規ページを開設。)	自己分析：	判断理由： ホームページの新規ページの開設や、新型コロナウイルス関連を含む災害などの情報提供など、必要な情報を効果的に発信できたと考えている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： ホームページの新規ページの開設や、新型コロナウイルス関連を含む災害などの情報提供など、必要な情報を効果的に発信できたと考えており、また、LINE公式アカウントで発信する際に、詳細をホームページで閲覧するようリンクさせたりしているため、アクセス数が伸びている。今後も迅速に詳細を情報提供するためには欠かせないツールである。				R8：				R10：					



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：発行回数	指標の求め方：市勢要覧本編、資料編発行回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：配布部数	指標の求め方：配布部数(年度によって配布部数が異なるため計画値の設定はしない)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	1 1	—	2		—	1	—		2	—	1	—		
	成果指標 1 (単位/部)	計画値 実績値	— 308	— 249	—		—	—	—		—	—	—	—		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 市勢要覧資料編については2年ごとに作成しており、令和3年度においても作成を終えている。市勢要覧を庁舎1回エントランスに配置することにより、来庁者による持ち帰りが多くなったところである。	自己分析： 配布部数は、本編149、資料編100となっており、昨年同様、庁舎1回エントランスに配置することにより、来庁者による持ち帰りが多くなっているところである。	自己分析：	判断理由： 近年ではコロナ禍の影響もあり、市外から砂川への視察や道外での説明会などが減り、配布部数としては減となっている。ただ、ホームページやアプリ(カタログポケット)からも本編をデータで見ることができるとはしない。なお、令和5年度は、予定どおり本編と資料編の発行を予定している。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 情報媒体がスマートフォンやタブレットなどの加速的普及の中でネット環境が大幅に向上しており、ホームページやアプリ(カタログポケット)からも閲覧できるようになっているが、議員視察や職員募集説明会などの市の施策をPRするため即時に見ることができる紙媒体の市勢要覧も重要である。自前で制作するDTP方式を継続し、経費削減をしながら効果を発揮していきたい。					R8：					R10：					



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：発行回数	指標の求め方：発行回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：配布部数	指標の求め方：配布部数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値			1				1				1			
	成果指標 1 (単位/部)	計画値 実績値			8,600				8,600				8,600			
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)															
	総合評価					極めて良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由： 市の制度や各種届出、施設情報などに電話帳がついていることで、利便性が高いものと考えている。また、民間企業と共同で制作しており、広告収入で発行していることから経費がかからず、令和5年度においても全戸に配布することができている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 市の制度や各種届出、施設情報などに電話帳がついていることで、利便性が高く、さらには民間企業の広告収入で発行していることから経費がかからず、令和5年度においても広報委員により全戸に配布することができている。引き続き定期的なスパンで発行していくこととする。					R8：					R10：					